

8 & 16ポートKVMスイッチ搭載 1U 奥行き17インチ&19インチ ラックマウント型LCDコンソール

RACKCONS1708

RKCONS1708EU

RACKCONS1716

RKCONS1916EU

RACKCONS1908

RACKCONS1916

RKCONS1708GB

RKCONS1716GB

RKCONS1908GB

RKCONS1916GB



*実際の製品は写真と異なる場合があります。

DE: Bedienungsanleitung - de.startech.com

FR: Guide de l'utilisateur - fr.startech.com

ES: Guía del usuario - es.startech.com

IT: Guida per l'uso - it.startech.com

NL: Gebruiksaanwijzing - nl.startech.com

PT: Guia do usuário - pt.startech.com

最新の情報は www.startech.com でご確認ください

FCC準拠ステートメント

本製品はFCC規則パート15のBクラスデジタルデバイスに対する制限を遵守しているかを確認する試験にて、その準拠が証明されています。これらの制限は、住居環境に設置された場合に有害な干渉から合理的に保護するために設計されています。本製品は無線周波数エネルギーを発生、使用、放出し、指示に従って取り付けられ、使用されなかった場合は、無線通信に有害な干渉を与える可能性があります。一方、特定の取り付け状況では、干渉が起きないという保証を致しかねます。本製品がラジオやテレビ電波の受信に有害な干渉を発生する場合(干渉の有無は、製品の電源を一度切り、改めて電源を入れることで確認できます)、次のいずれかまたは複数の方法を試すことにより、干渉を是正することをお勧めします：

- 受信アンテナの向きを変えるか、場所を変える。
- 製品と受信アンテナの距離を離す。
- 受信アンテナが接続されているコンセントとは異なる回路を使うコンセントに本製品を接続する。
- 販売店が実績のあるラジオ/テレビ技術者に問い合わせる。

商標、登録商標、その他法律で保護されている名称やシンボルの使用

本書は第三者企業の商標、登録商標、その他法律で保護されている名称やシンボルをウェブサイト上で使用する場合がありますが、これらは一切StarTech.comとは関係がありません。これらの使用は、お客様に製品内容を説明する目的でのみ行われており、StarTech.comによる当該製品やサービスの保証や、これら第三者企業による本書に記載される商品への保証を意味するものではありません。本書で直接的に肯定する表現があったとしても、StarTech.comは、本書で使用されるすべての商標、登録商標、サービスマーク、その他法律で保護される名称やシンボルは、それぞれの所有者に帰属することをここに認めます。

目次

はじめに	1
パッケージの内容	1
インストール手順と使用方法	2
ハードウェアガイド	2
コンソール/モジュールを接続する	6
コンピュータをモジュールに接続する	8
モジュールのオペレーション	13
技術仕様	21
技術サポート	23
保証に関する情報	23

はじめに

StarTech.comのKVM搭載LCDラックコンソールをご購入いただきありがとうございます。この製品は、LCDコンソールと17インチモニタ、16ポートKVMスイッチを組み合わせしており、一体化したキーボード、マウス、TFTスクリーンから複数のコンピュータを管理することができます。使用していない間はコンパクトな1Uサイズのラック中にスライドさせて収納できます。

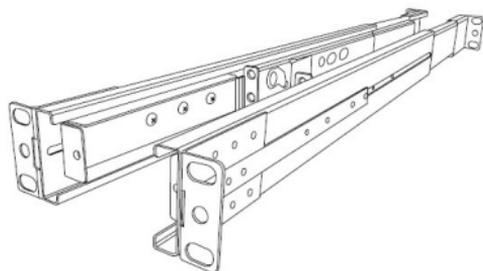
パッケージの内容

- 1x 1Uサイズ LCDラックコンソールドロワー
- 1x 1Uサイズ マルチプラットフォームKVMスイッチ
- 1x マウントレール - セット
- 1x マウント用ブラケット
- 1x 電源アダプタ

インストール手順と使用方法

ハードウェアガイド

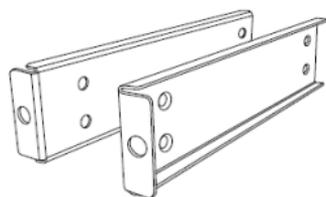
フロントブラケットとリアブラケットの付いたサイドレール(2)



マウント用ブラケット(2)

キー(2)

取り付けネジセット



以下の事項にご注意ください: RACKCONS1716は、以下に示すように、ラックマウント型コンソールとラックマウント型KVMモジュールの2つの異なるコンポーネントで構成されています。2つのデバイスは、コンソールのリアパネルにあるセントロニクス・コネクタと、同様にモジュールのフロントパネルにあるコネクタを介して接続します。

モジュール - リアパネル



モジュール - フロントパネル

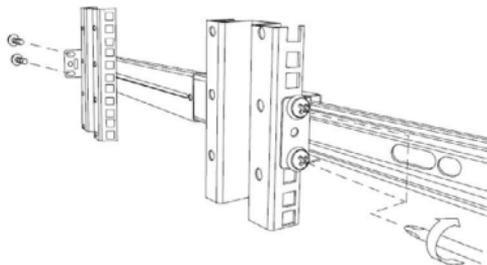
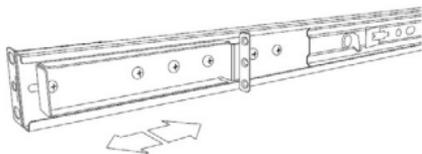
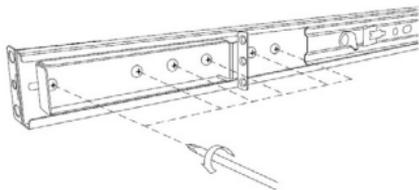


コンソール - フロントビュー (開いた状態)

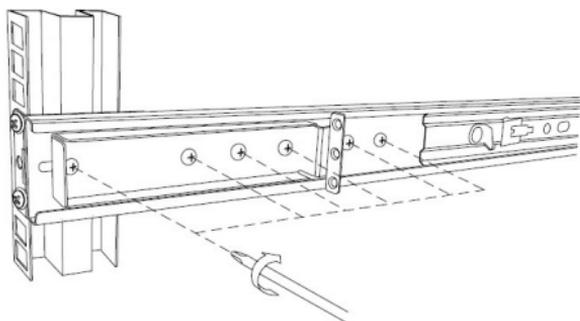


コンソールの取り付け

1. 後側にあるネジを緩め (サイドレールに工場で取り付けられています)、お使いのキャビネットの奥行きに合わせてリアブラケットの長さを調節します。
2. レールをキャビネットに取り付けます。



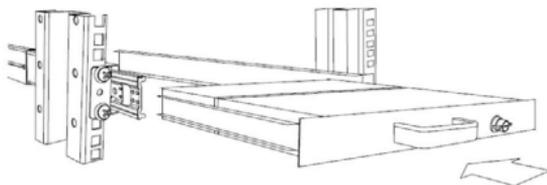
3. 手順1で緩めたネジを締めます。



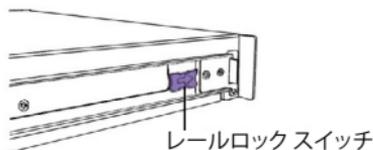
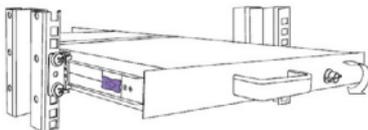
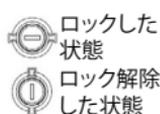
4. 手順1~3を繰り返して、残りのレールを取り付けます。

5. モジュールをコンソールのサイドレールに差し込み、モジュールとコンソールを、コンソールのオスのセントロニクス・コネクタとモジュールのメスのセントロニクス・コネクタを使用して接続します。しっかり接続されていること、モジュールがコンソールのサイドレール内にしっかりと装着されていることを確認します。

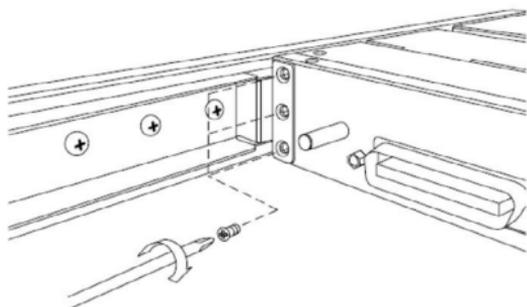
6. 優しくかつ確実にコンソールを（モジュールを取り付けた状態で）左右のレールにはめ込みます。



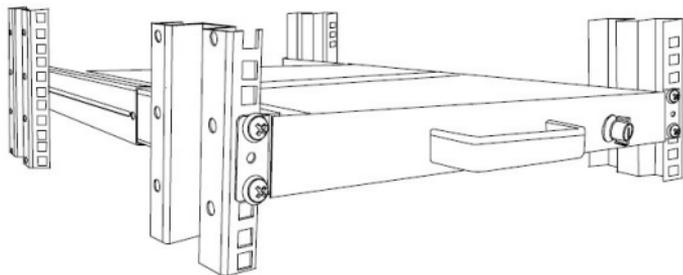
7. コンソールのロックを外し、左右のレールロックスイッチを同時に手前に引っ張ります。このポジションを維持しながら、コンソールをキャビネットに押し込みます。



1. コンソールの両側で3本のネジを締めます。



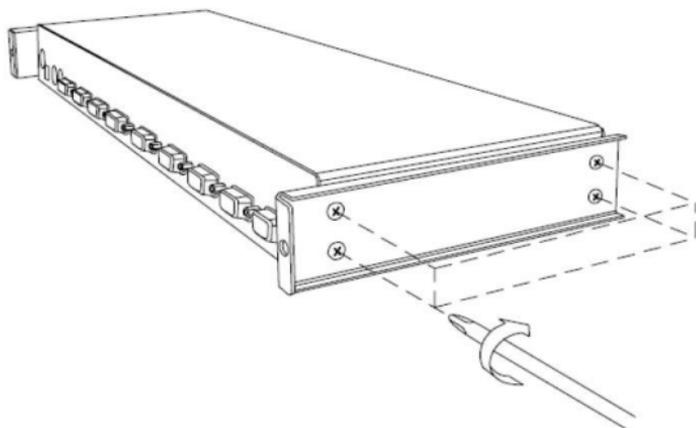
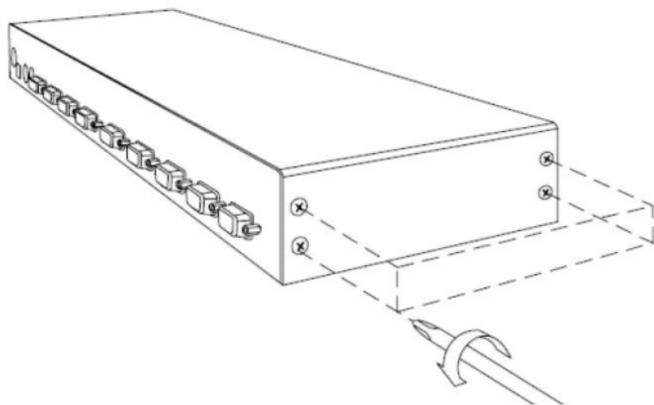
2. これでインストールは完了です。



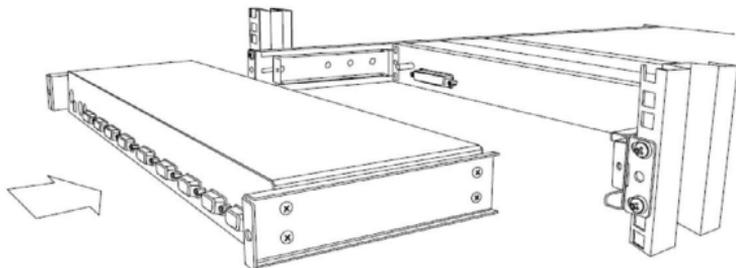
コンソール/モジュールを接続する

KVMコンソール/モジュールをコンピュータに接続するには、次の手順に従ってください。

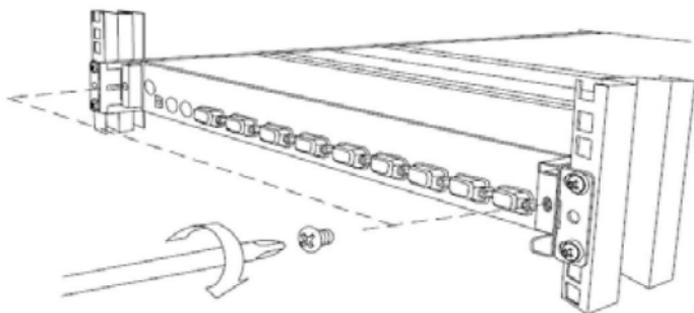
1. KVMコンソールの両側から4本のネジを外します。外したネジは次回のインストールに備えて保管しておいてください。
2. 手順1で外したネジを使って、マウント用ブラケットをKVMコンソールの両側に取り付けます。



3. キャビネットの背面から、KVMコンソールをマウント用レールの上へスライドさせます。



4. コンソールの両側で1本ずつネジを締めます(下図参照)。



コンピュータをモジュールに接続する

超薄型KVMケーブルを使用して、制御対象の各コンピュータをStarView KVMコンソールのPCポートに接続します。モジュールは、2-in-1 USBまたは3-in-1 PS / 2ケーブルのいずれかを使用できます。ケーブルを使用してスイッチ背面のPCポートのひとつとコンピュータのキーボード、マウス、ビデオ用のポートを接続します。**注意:**上記はKVMスイッチが1台のみの場合の手順です。

続いて、12V DC電源アダプタをKVMモジュールの電源ポートに接続し、コンソールで制御するコンピュータの電源を入れます。

以下の事項にご注意ください:最初の電源投入後、KVMの電源を切ることなく、追加のコンピュータまたはスレーブKVMスイッチをホットプラグできます。

カスケードの設定

第2レベルのKVMを1つ以上のマスターKVMコントロールのPCポートに接続できます。マスターコンソールに接続したKVMスイッチはスレーブと呼ばれます。

接続すると、KVMスイッチはマスターまたはスレーブのいずれかに自動的に設定されます。マスターKVMには、同等または「より小さい」KVMのみを接続できます。例えば、16ポートのマスターKVMスイッチには、16ポートと8ポートの両方のスレーブがあります。8ポートのマスターKVMスイッチには、8ポート（またはそれ以下）のKVMスレーブしか接続できません。

16ポートKVMは、8台の16ポートスレーブKVMそれぞれに16台のコンピュータに接続することで、136台のコンピュータに対応できます。スレーブKVMはA～Hポートではなく、1～8ポートに接続する必要があります。

KVMをカスケード接続するには、3-in-1 PS / 2 KVMケーブルを使用して、マスタースイッチのPCポートの1つをスレーブスイッチのコンソールポートに接続します。カスケード接続されたスイッチをオンにするときは、他のスイッチをオンにする前にマスタースイッチをオンにしてください。

コンソールの電源を入れる

電源コードとすべてのケーブルとが適切に接続されていることを確認します。ドロワーのハンドルをつかみ、パネルを前に引き上げてから、右上のプッシュボタンを押してTFTスクリーンを有効にします。

モニターパネルの左側にあるLEDはオレンジからグリーンに変わり、ユニットが作動したことを確認できます。

ディスプレイ設定の調節

ドロワーを接続し、コンピュータの電源を入れたら、以下の1つないし複数のディスプレイ設定を行い、コンピュータがコンソールのネイティブ解像度に従って表示できるようにします。

- ディスプレイモード (別名、デスクトップエリアまたはビデオ解像度)
- リフレッシュレート (別名、垂直スキャンレートまたは垂直同期)
- 色深度 (別名、カラーパレットまたは色数)

各ビデオカードには複数のコントロール機能があり、これを使ってディスプレイ設定を調節することができますが、それぞれビデオカードのソフトウェアやドライバは1つひとつ異なります。ほとんどの場合、ビデオカードのメーカーが提供するプログラムかユーティリティを使ってこれらの設定を調節することができます。ほとんどのビデオカードでは「Windowsディスプレイプロパティ」コントロールパネルを使ってディスプレイを調節していきます。「Windowsディスプレイプロパティ」を開くには、Windowsデスクトップの空いている場所で右クリックし、「プロパティ」を選択します。通常、「設定」タブからカラーパレットやデスクトップエリア (X×Yピクセル解像度) を変更できます。

「Windowsディスプレイプロパティ」コントロールパネルに機能を追加し、柔軟かつ使いやすい設定オプションを提供しているビデオカードもあります。たとえば、コントロールパネルには「プロパティの詳細設定」ボタン、「調節」タブ、「更新」タブがあり、他の設定に変更できるようになっているかもしれません。また、ディスプレイプロパティの設定を別のユーティリティで行うビデオカードもあります。

解像度、色、またはリフレッシュレートを変える度に、画像サイズ、ポジション、または形が変更される可能性があります。これは正常です。モニターの画面コントロールを使って画像を再調節することができます。ディスプレイ設定の調節に関する詳細は、お使いのビデオカードに同梱されていたユーザマニュアルを参照してください。

コンソールの動作確認

1. コンソールが正常に動作していることを確認するには、次の手順に従ってください。
2. LCDラックドロワーの電源を入れてから、コンピュータの電源を入れます。
3. ビデオ画像が画面中央に来ていることを確認します。OSDコントロールを使って画像を調節するか(「パネルコントロールおよびOSD機能」のセクションを参照してください)、モニタの右側にある「Auto(自動)」ボタンを押します。

注意: お使いのビデオカードや希望に応じて、水平方向および垂直方向のポジション、コントラスト、輝度を調節することができます。作業を開始する前に、コンソールに接続するすべてのデバイスの電源が切れていることを確認します。地電圧の違いにより設置した機器がダメージを受けないように、接続するすべてのデバイスが適切に接地されていることを確認します。すべての周辺機器を接続してから電源を入れます。

パネルコントロールおよびOSDの機能

次のコントロールはコンソールモニタにあります。

自動調節

自動調節ボタンを押します。パネルが自動的にディスプレイサイズを調節し、パネルを最適な状態にします。

コントロール	説明
	ソフト電源ON/OFF。オンの時に隣のLEDが点灯します。
Auto(自動)	ディスプレイを自動同期し、任意の有効な工場出荷時のプリセットタイミングにスケールダウンします。
Up(上方向)	調節したい機能まで移動するために押します。
Down (下方向)	調節したい機能まで移動するために押します。
Menu (メニュー)	メインメニューにアクセスします。このボタンは「Enter」キーとしても機能します。

入力電源

1. **Menu**ボタンを押します。
2. **Down**ボタンと**Up**ボタンを使って移動します。
3. **Menu**ボタンを押して画面を開くと、次の文字が表示されます:**VGA/DVI**
4. **Down**ボタンと**Up**ボタンを使って入力信号ソースを選択します。
5. **Menu**ボタンを押して、選択内容を保存します。

輝度

1. **Menu**ボタンを押します。
2. **Down**ボタンと**Up**ボタンを使ってBrightness (輝度)まで移動します。
3. **Menu**ボタンを押して画面を開きます。
4. **Down**ボタンと**Up**ボタンを使ってディスプレイの輝度を調節します。
5. **Menu**ボタンを押して、選択内容を保存します。

コントラスト

1. **Menu**ボタンを押します。
2. **Down**ボタンと**Up**ボタンを使ってContrast (コントラスト)まで移動します。
3. **Menu**ボタンを押して画面を開きます。
4. **Down**ボタンと**Up**ボタンを使ってディスプレイのコントラストを調節します。
5. **Menu**ボタンを押して、選択内容を保存します。

色

1. **Menu**ボタンを押します。
2. **Down**ボタンと**Up**ボタンを使って移動します。
3. **Color (色)**をハイライトしたら、**Menu**ボタンを押して画面を開きます。
4. **Down**ボタンと**Up**ボタンを使ってディスプレイのコントラストを調節します。
5. **Menu**ボタンを押して、選択内容を保存します。
6. 次ページの表を参考にしてください。

色 - 続き

アイコン	説明
9300°K	CIE座標を9300°K色に設定します
7500°K	CIE座標を7500°K色に設定します
6500°K	CIE座標を6500°K色に設定します
User	ユーザ定義のCIEに設定します
Auto color	色を自動調節します
Return	終了するか、前のページに戻ります

ポジション

1. Menuボタンを押します。
2. DownボタンとUpボタンを使って移動します。
3. Position (ポジション)をハイライトし、Menuボタンを押して選択すると、以下の画面が起動します。
4. DownボタンとUpボタンを使って移動します。
5. Menuボタンを押して、選択内容を保存します。

言語

アイコン	説明
Image Pos	画像ポジションを調節します
OSD Pos	OSDポジションを調節します
Return	終了するか、前のページに戻ります

1. Menuボタンを押します。
2. DownボタンとUpボタンを使って移動します。
3. Language (言語)をハイライトし、Menuボタンを押して選択すると、以下の画面が起動します。
4. DownボタンとUpボタンを使って移動し、希望の言語をハイライトします。
5. Menuボタンを押して、選択内容を保存します。

再呼び出し

1. Menuボタンを押します。
2. DownボタンとUpボタンを使ってRecall (再呼び出し) まで移動します。Menuボタンを押して画面を開くと、DownボタンとUpボタンを使ってYes (はい) またはNo (いいえ) を選択できます。選択したら、Menuボタンを押します。以下の事項にご注意ください: Yesを選択すると、設定が工場出荷時の初期設定に戻ります。この変更を希望しない場合、Noを選択します。

終了

メニューを終了するには、Exit (終了) まで移動し、Menuボタンを押します。

モジュールのオペレーション

プッシュボタンの選択

コンソールのキーボード上部にあるプッシュボタンを押してホットキーコマンドを発行するか、OSDウィンドウを起動すると、コンピュータを選択できます。コンピュータのポートを選択するとインジケータLEDの色が変化します (赤色)。オートスキャンモードかマニュアルスキャンモードの時はインジケータが赤色に点滅します。

K/Mリセット機能 (モジュール上) は、コンピュータやKVMスイッチの電源を切らずにシステムを再設定します。スイッチをリセットするには、フロントパネルボタン「1」と「2」を同時に押します。

オートスキャン機能は接続したコンピュータを自動的に移動します。オートスキャンモードに入るには、フロントパネルボタン「7」と「8」を同時に押します。

2秒以内に左側<CTRL>キーを2回押すと、[Hotkey Menu] が表示されます (OSDのオプションとして有効になっている場合)。または、2秒以内に左側<CTRL>キーを3回押すと、[KVM MENU] 画面 (右側に掲載) にコンピュータに対応するチャンネルアドレス、名前、ステータスのリストが表示されます。

現在選択されているコンピュータのポート番号は、フロントパネルのインジケータと同じように、OSDのタイトルの右側に赤色で表示されます。

電源が入り操作可能状態のデバイス名は緑色で表示されます。電源が入っていない場合、白色で表示されます。OSDのメニューの表示色は起動時に更新されます。

<UP>と<DOWN>の矢印キーを使用してコンピュータをハイライトし、<ENTER>キーを押して選択します。または、<ESCAPE>キーを押してOSDを終了しディスプレイからOSDメニューを消すと、現在選択されているコンピュータや動作ステータスを示すステータスウィンドウがディスプレイに再表示されます。

コンピュータ名の右横の三角マーク(▲)は、そのポートがスレーブスイッチにカスケードされていることを表します。三角マークの左の数字はスレーブスイッチのポート数です。例:8ポートスイッチなら8が表示されます。<ENTER>キーを押すと階層がひとつ下がり、スレーブスイッチに接続されたコンピュータ名のリストが表示された別の画面が現れます。スレーブスイッチの名前はOSDメニューの右上に表示されます。この機能はコンピュータのグループ化に便利であり、グループ名を表示させることもできます。

コンピュータ名の右横のアイマーク(Ⓢ)は、そのコンピュータがスキャンモードでモニター対象になっていることを表します。OSDでは、ファンクションキー<F2>でこのアイマークのオン/オフを切り替えることができます。<ESCAPE>キーを押してOSDを終了し選択したコンピュータに戻ります。コンピュータ名も画面に表示されます。

コンピュータ名割当ての編集

ファンクションキー<F1>:コンピュータまたはスレーブの名前を編集するには、まず**up**と**down**の矢印キーでポートをハイライトし、名前を入力した後<F1>を押します。有効な文字は、'A'~'Z'、'0'~'9'およびダッシュ記号(-)です。小文字は大文字に変換されます。<BACKSPACE>を押して一度に一文字ずつ削除します。スイッチの電源が切れても、操作者が変更するまでは入力された名前のすべてが不揮発性メモリに保存されています。

KVM MENU		5-6	
CH	Name	CH	Name
1	SALES-1F 8▶	A	SHIPPING*
2	SALES-2F 8▶	B	RD-TEST1
3	SALES-3F*	C	RD-TEST2
4	HP-SERV *	D	
5	IBM-SRV 16▶	E	
6	NOVEL-1 16▶	F	
7	NOVEL-2 *	G	
8▲	ACCOUNT	H	

F1 Edit	F4 More
F2 *Switch	Esc Quit
F3 Security	



KVM MENU		5-6	
CH	Name	CH	SALES-2F Name
1	US WEST *		
2	US-EAST *		
3	US-NORTH *		
4	US-SOUTH *		
5	EUROPE *		
6	ASIA-N *		
7	ASIA-S *		
8	PACIFIC *		

F1 Edit	F4 More
F2 *Switch	Esc Quit
F3 Security	

オートスキャンするコンピュータの選択

ファンクションキー <F2> - このキーでコンピュータのアイマーク(☺)のオン/オフを切り替えます。まず、**up**と**down**矢印キーを使用してアイマークをハイライトしてから<F2>キーを押し、アイマークのオン/オフを切り替えます。スキャンモードにおけるスキャンタイプが'**Ready PC + ☺**'の場合、電源の入ったアイマーク付きのコンピュータだけが連続して表示されます。

デバイスのロック(スレープまたはコンピュータ)

ファンクションキー<F3> - 不正アクセスから守るためデバイス(コンピュータまたはスレープ)をロックする場合は、**Security**を使用してください。[Security]は1台のデバイス(コンピュータまたはスレープスイッチ)にしか有効になりません。デバイスをロックするには、**up**と**down**の矢印キーを使用してハイライトしてから<F3>キーを押します。次に、新しいパスワードとして最大4文字('A'~'Z'、'0'~'9'、'-')を入力してから<ENTER>を押します。Securityを有効にしたデバイスにはポート番号に続いてロックマーク(🔒)が表示されます。ロックのかかったデバイスから恒久的に [Security] 機能を無効にするには、当該デバイスをハイライトして<F3>キーを押し、パスワードを入力します。

ロックのかかったデバイスに一時的にアクセスしたい場合は、当該デバイスをハイライトして<ENTER>キーを押します。OSDがパスワードを訊ねてきます。正しいパスワードを入力すると、そのデバイスを使えるようになります。操作者が別のポートに切り替えると、デバイスは自動的に再ロックされます。スキャンモードでは、OSDは [Security] が有効になったデバイスをスキップします。

以下の事項にご注意ください:この機能では1台のデバイス(コンピュータまたはスレープスイッチ)しか有効になりません。

以下の事項にご注意ください:パスワードを忘れた場合、セキュリティ機能を完全に無効にする唯一の方法は、コンソールからすべての電源を取り除くことです。すべてのコンピュータの電源を切ってすべての電源アダプタを抜き、すべての機器を再起動する必要があります。

高度な機能

ファンクションキー <F4>:<F4>キーを押すとさらに多くの機能を利用できます。以下のような機能を表示した新しい画面が現れます。そのほとんどに三角記号(▲)が付され、選択できるオプションがあることを示しています。**up**と**down**の矢印キーを使用して、機能を選択して<ENTER>を押します。利用できるオプションは画面中央に表示されます。もう一度**up**と**down**の矢印キーを使用して利用可能なオプションを表示し、<ENTER>を押して選択します。<ESCAPE>を押せばいつでも終了できます。

オートスキャン

このモードでは、コンソールは一定の間隔で電源の入ったコンピュータから別のコンピュータへ自動的に連続的に切り替えていきます。オートスキャンモードの間は、OSDには選択したコンピュータの名前が表示されます。オートスキャンが何らかのキーボード操作あるいはマウス操作を検知すると、操作が停止するまでスキャンを保留します。その後、順番の次にあるコンピュータからスキャンを再開します。オートスキャンモードを停止するには、左側<CTRL>キーを2回押すか、フロントパネルの任意のボタンを押します。スキャンタイプとスキャンレートでスキャンパターンを設定します。スキャンタイプ(<F4>: More\Scan Type)は、スキャン対象をアイマークが付いたコンピュータにするかどうかを決定します。スキャンレート(<F4>: More\Scan Rate)は、次のコンピュータを選択するまでの表示間隔を設定します。

マニュアルスキャン

キーボードから制御して電源の入ったコンピュータをひとつずつスキャンしていきます。スキャンタイプ(<F4>: More\Scan Type)は、スキャン対象をアイマークが付いたコンピュータにするかどうかを決定します。<UP>矢印キーで前のコンピュータを選択し、<DOWN> 矢印キーで次のコンピュータを選択します。ほかの任意のキーを押すとマニュアルスキャンモードが終了します。

オーディオスティック

オプションのマルチメディア・モジュールを各KVMモジュールの背面に接続すると、マイクとステレオスピーカースの信号を選択できます。オーディオスティックには次の2つのオプションがあります:OnとOff。Onに設定すると、オーディオ選択に続いてコンピュータを選択できます。

Offを設定すると、オーディオ選択が停止し、続いてコンピュータの選択が停止します。別のコンピュータを操作しながら特定のコンピュータのオーディオ信号を聞きたい場合に便利です。オーディオスティックの設定は不揮発性メモリに保存されます。

スキャンタイプ

Ready PC + : スキャンモードでは、電源が入ったアイマーク付きのコンピュータをスキャンします。

Ready PC: スキャンモードでは、電源の入ったコンピュータをスキャンします。スキャンタイプの設定は不揮発性メモリに保存されます。

Scan Rate

オートスキャンモードでのコンピュータの表示時間を設定します。オプションは、3秒、8秒、15秒、30秒です。スキャンレートの設定は不揮発性メモリに保存されます。

Keyboard Speed

コンソールには、BIOSとWindowsと同様の設定をオーバーライドするキーボードのタイプマチック設定が用意されています。利用可能な速度のオプションは、Low (低速)、Middle (中速)、Fast (高速) およびFaster (超高速) で、それぞれ10、15、20および30文字/秒です。キーボード速度の設定は不揮発性メモリに保存されます。

Hotkey Menu

このオプションがオンになっている場合、2秒以内に左側<CTRL>キーを2回押すと、ホットキーコマンドのリストが表示されたホットキーメニューが現れます。左側<CTRL>キーを2回押した時にホットキーメニューを表示させたくない場合はオフにできます。ホットキーメニューの設定は不揮発性メモリに保存されます。

CH Display

Auto Off: コンピュータを選択すると、ポート番号とコンピュータ名が画面上に3秒間表示された後、自動的に消えます。Always Onに設定した場合: ポート番号と選択したコンピュータ名および/またはOSDステータスが画面上に常に表示されます。CHディスプレイの設定は不揮発性メモリに保存されます。

Position

動作中に画面に表示される、選択したコンピュータ名および/またはOSDステータスの表示位置です。異なるVGA解像度では実際の表示位置がずれることがあります。解像度が高いほど表示位置は上方になります。ポジションの設定は不揮発性メモリに保存されます。ULはUpper Left (左上)、URはUpper Right (右上)、LLはLower Left (左下)、LRはLower Right (右下) の意味です。MIはMiddle (中央) のことです。

ホットキーコマンド

ホットキーコマンドはコンピュータを選択したり、コンピュータスキャンを起動させたりするための短いキーボードシーケンスです。コンソールは、ホットキーのキーストロークを即座に解釈します。ホットキーシーケンスは左側<CTRL>を2回押し、もう1回か2回ボタン操作を行います。正常にホットキーコマンドが操作される度にアラームが鳴ります。エラーがある場合は低音で1回鳴ります。キーシーケンスが正しくない場合は、選択したコンピュータに転送されません。

左側<CTRL>キーを2回押すと、OSDの機能として短縮形のホットキーメニューを起動できます (<F4>:more\Hotkey Menu)。

L-CTRL: キーボードの左側にある<CTRL>キーです。

1~8/A~H: キーボード上部にある数字キー'1' ~ '8'と文字キー'A' ~ 'H'のことです。キーボード右側のキーパッドは使用しないでください。

ホットキーコマンドでコンピュータを選択するには、KVMモジュール接続により決まるポート番号が必要になります。マスタースイッチに接続されたコンピュータの場合、そのポートはPCポートラベル (1~8またはA~H) で表されます。スレーブスイッチに接続されているコンピュータの接続ポートは2文字で表示されます。1番目の文字はマスタースイッチのポート番号 (1~8) で、2番目の文字はスレーブスイッチのポート番号 (1~8またはA~H) です。マスタースイッチの'PC 1' ~ 'PC 8' ポートだけがスレーブスイッチに接続できることに注意してください。

ホットキーコマンド - 続き

コマンド	ホットキー シーケンス	説明
コンピュータ 選択	左Ctrl + 左Ctrl + x	<p>コンソールポート「x」に接続されているコンピュータを選択します。</p> <p>コンソールに直接接続されたコンピュータの場合、「x」は1~8またはA~Hです。(例: 左Ctrl + 左Ctrl + Bは、コンソールの「PC B」ポートに接続されたコンピュータを選択します)。</p> <p>カスケード接続されたコンピュータの場合は、コンソールに接続されているスレーブKVMのポート番号を入力してから、PCが接続されているスレーブKVMにポート番号を入力する必要があります。</p> <p>(例: 左Ctrl + 左Ctrl + 3 + 1 は、コンソールのポート3に接続されたスレーブKVMのポート1に接続されたコンピュータを選択します)。</p>
オートスキャン 開始	左Ctrl + 左Ctrl + F1	<p>電源が入っているコンピュータを自動的にスキャンします。</p> <p>キーボードまたはマウスの動作が検出されると、その動作が停止するまでオートスキャンが一時停止します。</p>
オートスキャン 停止	左Ctrl + 左Ctrl	オートスキャンモードを終了します。
オートスキャン レートの調整	左Ctrl + 左Ctrl + F3	異なるオートスキャン間隔を移動します。コンソールは、3、8、15および30秒にそれぞれ対応する1回から4回のビープ音を鳴らして、選択したオートスキャン間隔を知らせます。

マニュアル
スキャン

左Ctrl + 左Ctrl
+ F2

上下方向の矢印を使用してシーケンスにある前後のコンピュータ間を移動します。ほかの任意のキーを押すとマニュアルスキャンが終了します。

キーボードの
タイプマティック
レート調節

左Ctrl + 左Ctrl
+ F4

異なるタイプマティックレート間を移動します。この設定は、BIOSおよびオペレーティングシステムの設定を上書きします。コンソールは、10、15、20 および30文字/秒にそれぞれ対応する1回から4回のビーブ音を鳴らして、選択したタイプマティックレートを知らせます。

動作中の設定変更

「PC x」ポートに接続されたデバイス(コンピュータまたはKVMスイッチ)は、初回の電源投入後もいつでも変更することができます。PC 1~PC 8ポートの接続をコンピュータからスレーブスイッチへ、またはその逆に変更した場合、あるいはポートに接続されているデバイスを交換した場合、OSDは次回再起動した時に変更を反映します。

以下の事項にご注意ください:新しいデバイスは、マスターに接続する前にオフにする必要があります。

技術仕様

	RACKCONS1708/GB/EU RACKCONS1716/GB	RACKCONS1908/GB RACKCONS1916/GB/EU
ディスプレイサイズ	17インチ	19インチ
コネクタ	8 x DE15メス (入力) (1708のみ)	8 x DE15メス (入力) (1908のみ)
	16 x DE15メス (入力) (1716のみ)	16 x DE15メス (入力) (1916のみ)
	1 x VGAメス (出力) 休止状態:	1 x VGAメス (出力) 休止状態:
	1 x PS/2キーボード 6ピン Mini-Din (メス)	1 x PS/2キーボード 6ピン Mini-Din (メス)
	1 x PS/2マウス 6ピン Mini-Din (メス)	1 x PS/2マウス 6ピン Mini-Din (メス)
パネルタイプ	アクティブ型マトリックスTFT LCD	
解像度 最大解像度	1280 x 1024 (XGA)	
ピクセルピッチ	0.264mm x 0.264mm 対応	0.098mm x 0.294mm 対応
バックライト	4つのランプ	
視角	左右ビュー-60~70 (Typ)	左右ビュー-140 (Typ)
	上下ビュー-45~60 (Typ)	上下ビュー-140 (Typ)
コントラスト比	450:1	500:1
輝度	ホワイト250cd/m2 (センター 1ポイント Typ)	
対応カラー	16.2M カラー (6ビット、FRC)	
応答時間	立ち上がり時間: 2ms	立ち上がり時間: 2ms
	減衰時間: 14ms	減衰時間: 10ms
システムケーブル	VGA+2 x PS/2ケーブル	

	RACKCONS1708/GB/EU RACKCONS1716/GB	RACKCONS1908/GB RACKCONS1916/GB/EU
キーボード/マウス	106キーのPS/2対応キーボードタッチパッド付き	
Keyboard言語	英語 (USA)、英語 (UK)、ドイツ語、フランス語、スペイン語、 イタリア語、ポルトガル語、オランダ語、スイス語、 ベルギー語、スウェーデン語、ノルウェー語、オランダ語、 日本語、中国語 (台湾)、ロシア語	
同期	45~80KHz	
電源	100~240 VAC入力	
電源アダプタ	12VDC、4A	
電力消費	25W、19.05W (パネル)	25W、21.05W (パネル)
動作温度	0°C ~ 50°C	
保管温度	-20°C ~ 60°C	
湿度	10%~90% RH	
最小 / 最大 取り付け深さ	504mm / 1000mm (19.84インチ/39.37インチ)	554mm / 1000mm (21.8インチ/39.37インチ)
外形寸法	440 x 470 x 44mm	490 x 470 x 44mm
正味重量	11.75kg	12.75kg
シャーシ構造	強力スチール	
規制認証	CE、FCC、UL、CUL、CE、RoHS	

技術サポート

StarTech.comの永久無料技術サポートは、当社が業界屈指のソリューションを提供するという企業理念において不可欠な部分を構成しています。お使いの製品についてヘルプが必要な場合は、www.startech.com/support までアクセスしてください。当社では、お客様をサポートするためにオンラインツール、マニュアル、ダウンロード可能資料をご用意しています。

ドライバやソフトウェアに関する最新情報は www.startech.com/downloads でご確認ください

保証に関する情報

本製品は2年間保証が付いています。

また、StarTech.comは、資材や製造工程での欠陥に起因する商品を、新品購入日から、記載されている期間保証します。この期間中、これら商品は修理のために返品されるか、当社の裁量にて相当品と交換いたします。保証で適用されるのは、部品代と人件費のみです。StarTech.comは商品の誤用、乱雑な取り扱い、改造、その他通常の摩耗や破損に起因する欠陥や損傷に対して保証いたしかねます。

責任制限

StarTech.com Ltd. やStarTech.com USA LLP (またはその役員、幹部、従業員、または代理人) は、商品の使用に起因または関連するいかなる損害 (直接的、間接的、特別、懲罰的、偶発的、派生的、その他を問わず)、利益損失、事業機会損失、金銭的損失に対し、当該商品に対して支払われた金額を超えた一切の責任を負いかねます。一部の州では、偶発的または派生的損害に対する免責または限定的保証を認めていません。これらの法律が適用される場合は、本書に記載される責任制限や免責規定が適用されない場合があります。

見つけにくい製品が簡単に見つかります。StarTech.comでは、これが企業理念です。それは、お客様へのお約束です。

StarTech.comは、お客様が必要とするあらゆる接続用パーツを取り揃えたワンストップショップです。最新技術からレガシー製品、そしてこれらの新旧デバイスを一緒に使うためのあらゆるパーツ。当社はお客様のソリューションを接続するパーツを見つけるお手伝いをしています。

当社はお客様が必要なパーツを見つけるのを助け、世界中どこでも素早く配送します。当社の技術アドバイザーまでご連絡いただくか、当社のウェブサイトまでアクセスしていただくだけで、お客様が必要としている製品をすぐに提示します。

StarTech.comが提供しているすべての製品に関する詳細な情報は www.startech.com までアクセスでご確認ください。ウェブサイトだけの便利なツールをお使いいただけます。

StarTech.comは接続や技術パーツのISO 9001認証メーカーです。StarTech.comは1985年に創立し、米国、カナダ、イギリス、台湾に拠点を構え、世界中の市場でサービスを提供しています。